

精神疾患の診断・統計マニュアル第4版（DSM-IV-TR）

DSM-IVには、ニコチン依存が、麻薬、覚せい剤、アルコール等とともに、「物質使用障害」のカテゴリーに記載されている

物質使用障害

- アルコール関連障害
- アンフェタミン関連障害
- カフェイン関連障害
- 大麻関連障害
- コカイン関連障害
- 幻覚剤関連障害
- 吸入剤関連障害
- ニコチン関連障害
 - ・ ニコチン使用障害
 - ・ ニコチン依存
 - ・ ニコチン誘発性障害
 - ・ ニコチン離脱
- アヘン類関連障害
- フェンシクリジン関連障害
- 鎮静剤、催眠剤または抗不安薬関連障害

【出典】 <http://rnavi.ndl.go.jp/mokuji.html/000004326569.html>

厚生労働省

依存性について

依存とは、ある物をやめようと思っても強い渴望があり、やめられなくなった状態を言います。たばこの成分であるニコチンによるニコチン依存は、国際疾病分類（ICD-10）や精神医学の分野で世界的に使用されている「精神障害者の診断及び統計マニュアル第4版」（DSM-IV）において独立した疾患として扱われており、たばこに依存性があることは確立した科学的知見となっています。

【出典】 厚生労働省 喫煙と健康問題について簡単に理解したい方のために（Q & A）

<http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/qa/detail4.html>

厚生労働省

喫煙習慣の本質はニコチン依存症

- ニコチンの依存性については、これまで身体的依存の有無について議論がなされてきた。
- しかし、1988年に出版されたアメリカ公衆衛生局長官報告では、これまでの調査研究をレビューして、タバコに含まれるニコチンが麻薬やアルコールと同様の依存性薬物であると結論づけている。
- つまり、喫煙習慣の本質はニコチン依存症である。
- ニコチン依存症については国際的に広く認識されており、WHOの国際疾病分類第10版(ICD-10)やアメリカ精神医学会による「精神疾患の分類と診断の手引き、第4版」(DSM-IV)において、診断基準が示されている。
- すなわち、喫煙は治療の対象となる薬物依存症という病気であり、保健医療従事者がその治療を行う必要がある。

【出典】 厚生労働省 禁煙支援のためのテキスト教材

<http://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/kin-en-sien/manual/01-3-1.html>